

令和5年度 第1回 高山市総合教育会議 議事録

【日 時】 令和5年9月27日（水） 9時30分～11時30分

【場 所】 高山市役所 4階 特別会議室

【出席者】（構成員）

|          |        |
|----------|--------|
| 高山市長     | 田中 明   |
| 教育長      | 中野谷 康司 |
| 教育長職務代理者 | 長瀬 信   |
| 教育委員     | 野崎 加代子 |
| 教育委員     | 白田 美樹  |
| 教育委員     | 桑谷 康弘  |
| 教育委員     | 丸山 千絵  |

（構成員以外の出席者）

総合政策部長、教育委員会事務局長、市民活動部長、市民保健部長、福祉部長、総合政策課長、雇用・産業創出課長、教育総務課長、学校教育課長、文化財課長、子育て支援課長、子育て発達支援センター長、総合政策課係長、総合政策課係員

【会議内容（次第）】

- ・市長あいさつ
- ・教育長あいさつ
- ・議題

（1）教育大綱の推進に向けた取組みについて

令和4年度の実績 資料1

令和5年度の主な取組 資料2

（2）こどもまんなか社会の実現に向けて ～国の動向等と高山市における検討課題 資料3

（3）公園における大型遊具等の整備について 資料4

（4）行内体制を整備し、特別支援教育の充実を図る学校経営 資料5

（5）その他 ※非公開

【議事要旨】

総合政策部長 それでは、議題に入ります。高山市総合教育会議運営規程第3条の規定により、議長は市長が務めることとしていますので、進行を田中市長にお願いします。

市長 議題（1）教育大綱の推進に向けた取組みについて、事務局から説明をお願いします。

総合政策課長 （資料1、資料2を説明）

市長 ただいまの内容について、質問等がありましたらお願いします。

桑谷委員 資料1の3ページ23番のファミリーサポート事業について、今後形を変えながら継続していくと認識しています。昨年度の決算額が予算額と同額の1,150万円とありますが、この内訳を教えてください。プラットフォーム、周知、運用のそれぞれにどれだけ要したか知りたいです。

子育て支援課長 ファミリーサポートは昨年度に開設し非常に好評な事業と承知している。イニシャルコストは、開設準備経費に350万円かかっており、800万円ほどはランニングの部分に当たります。国の制度を活用しており、会員数に乗じた基準額があるため、会員が増えていくと事業費も増えていくというシステムとなっています。

桑谷委員 会員数は現在どれくらいか。

子育て支援課長 昨年度末の会員は350人です。内訳は、託児サービスを利用する会員が約260、託児サービスを提供する会員が約70で、両方を提供できる会員が約20です。

桑谷委員 資料1の5ページ36番の町内会等が行う児童遊園地整備について、助成実績が6件とあるが、修理と撤去の内訳を教えてください。

子育て支援課長 内訳の資料が手元にありませんが、今年度も非常に好調で予算額を上回りそうな申請をいただいています。内容は、フェンス等を新たに設けたり、遊具が古くなってきたので一式入れ替えるようなものを含めて半々ぐらいです。

長瀬委員 資料1の8ページ64番の高校連携の推進について、成果等の欄に「高校生の考えを施策に反映したり、一緒に施策を進めることができた」とありますが、具体的にはどのような施策に反映できたのか、あるいはどのような施策を一緒に進めたのか教えてください。

総合政策課長 斐太高校が取り組んでいるFRHについて、村半を活用して関係人口を拡大するためにはどうしたらよいかということテーマに取り組んだグループがあり、高校生が提案した内容を昨年度村半スタッフと共に一つの事業として実施し、多世代の多くの参加者を繋ぎ交流を図ることができました。他にも、SDGsの取り組みについて、昨年開催したフォーラムにおいて高校生に取り組みを発表いただきました。また、それをお聞きした方が次の展開に繋げるということがありました。

雇用・産業創出課 飛騨高山高校ビジネス課の郷土の魅力の情報発信する取り組みへの助言について、飛騨高山高校のビジネス課が「勝手に地元応援プロジェクト」を立ち上げ、市内商店街が苦手とするSNSを活用した情報発信について、高校生の目線で地元の魅力をSNSにより

発信する取組みを行っていただきました。今年は観光分野にも広げて発信していただいているところです。

長瀬委員 実施した成果は高校生にどのようにフィードバックしていますか。フィードバックをすることは大事で、例えば関わった生徒は、実施した成果を見ることで自信を持つことができるし、また次はもっとこうしようといったやる気にも繋がっていくと思います。そういった点でフィードバックは大事だと思います。また、関わった生徒だけではなく、市民を含めた全体にも積極的に発信することも大事ですし、併せて高校生が取り組んだ内容であっても、例えば小学生だとか中学生なんかにも発信することによって、自分たちが高校生になったときにこんなことをやっていきたいという憧れや思いに繋がっていくと思います。結果についてはどのように発信をしたか教えてください。

総合政策課長 発信については十分ではないところがあると思っています。今後実施される様々な取組みを広く知っていただけるような方法を検討したいと思います。

市長 若者による様々な活動を大人にも広く共有できる環境があれば、さらにやりがいを持って取り組むことにも繋がると思いますのでよろしくお願いします。

野崎委員 資料1の2ページ11番の産後ケア事業について教えてください。高山市は産後ケアの様々な保健指導に取り組んでいますが、保健指導だけではなく医療機関と連携したり、生活全般に関する福祉に繋がったようなケースはありましたか。  
また、資料2の3ページ19番の子どもにやさしいまちづくり計画の見直しのための調査の実施について、妊婦および現役の子育て世帯に対してニーズ調査を行うとありますが、様々な悩みや相談事はどのように生かすのか、また今後の進め方について教えてください。

市民保健部長 医療機関等との連携については、妊婦の場合は保健指導よりも妊婦健診の中で医師により対応されていることが多いです。精神的な部分の相談については状況によって必要なところに繋がっています。産後ケアについては伴走型相談支援も始まりましたので、支援を始める際に高山赤十字病院とアルプスベルと情報を共有し、どのような支援に繋がっていくのかといった流れを改めて確認しています。また、子育て支援課も含め、どのような形で支援ができるかということを相談しながら行っていく体制をとっています。助産師の人数を今年度から1人増やし、予約制や日にちを決めて相談を受けるというやり方ではなく、電話をいただいたらすぐに相談ができるような対応をしているところです。

子育て支援課長 子どもにやさしいまちづくり計画については、今年度が5年更新の計画の更新期にあたり、5年前にも行った調査をベースとしています。妊婦の方への調査は、5年前は対象ではありませんでしたが今回追加で行います。加えて、パートナーの方についても同じ内容を伺うこととし、切れ目のない生まれる前からの支援を考えていくために今年度拡充しました。

- 野崎委員 子どもを産み育てていく上で、男性の育休制度や、母親だけでなくパートナーがそれにどのように関わっていくのかということも、高山市の子どもたちが健やかに育つために大事な部分だと思っています。
- 市長 市では今年度、共創ミーティングを行い、そこで女性の方々に集まっていただきお話しした中で、妊娠出産、そして子を産み育てることが一つの大きい分岐点になると伺いました。また、その間のケアについてもその方のキャリアや生き方に繋がる分岐点になるということを伺いました。こちらから寄り添っていくという姿勢で進めて行きたいと思えます。
- 白田委員 資料1の2ページ7番から11番について、全体的に見て、見通しを立てた支援が行き渡っていることが伝わりました。この中で見通しを立てなかった、取りこぼしといったような方がいたのではないかと少し不安になります。また、資料2の2ページ11番の産科受診料の一部助成について、生まれる前からの支援が増えると安心して出産ができるようになると思いますが、こういった支援を必要とする方に確実に届ける手立てを続けてほしいと思います。他にも資料2の3ページ17番と19番にも妊婦を含めた新規の事業がありますが、これらの周知を徹底し支援が使われないということがないようにしてほしいです。
- 市民保健部長 11番の産科受診料の一部助成については、支援の該当の有無について本人から教えていただかないとわからない部分もありますが、母子手帳を交付する際にお伝えするようにしています。また、17番の「伴走型相談支援」と「経済的支援」の一体とした支援については、支援の漏れがないように、申請書の未提出の方について市で把握できる情報を突合して漏れのないようにお知らせをしているところです。
- 市長 様々な制度について、知ることができないことで取り残されたと感じたり、また、知ることによって実際は使わなくても安心感を得るということがあると思います。さきほど長瀬委員のご意見にもありました若者に関することについても、周知が難しく苦手なところだと思っています。市の施策のPRについては、市民の方々に知っていただくように意識して進めたいと考えており力を入れている分野です。
- 長瀬委員 資料2の3ページ17番の「伴走型相談支援」と「経済的支援」を一体とした支援の実施について、「一体とした」というところは、利用する側が利用しやすくなるために重要なことだと思います。窓口がたくさんあると良い事業を展開しようと思っても使われないことがあると思います。一体という考えは一つのキーワードとして捉えて良いと思います。
- 丸山委員 資料2の3ページ19番の子どもにやさしいまちづくり計画の見直しのための調査について、子育てに関するニーズを調査することは良いことだと思います。5年毎の調査とのことですが、このような調査を経験することなく子育て期が過ぎていく保護者もみえるの

で、このような調査があることや、意見を言うことができる機会があるということは安心にもつながりますし、大事なことだと思います。

また、資料2の3ページ17番と19番に関わるのですが、乳幼児期の子育てに対する安心感は小学校や中学校にも繋がっていきます。最初の子育てのときに温かく見守られて安心して子育てができる状況になると、小学生や中学生になったときに、誰に頼ったらよいか、また誰と一緒にすすめればよいかといったことを思いつきやすくなると思います。産後ケアについても利用者数が増えているため、認知に努めてもらうとともに、いざというときに頼っても良いという家族の方々の安心につながる仕組みであってほしいと思います。

また、資料2の19番のニーズ調査について、第9次総合計画の策定に向けたアンケートでは用紙に記載する回答方法がありましたが、紙を置いてもなかなか声は拾えないです。関わっている乳幼児教室では「こんなことがあるけどどう思う？」と聞くと、「あれがいい」「これがいい」「こんなことで困っている」といった意見がたくさん出ます。設置された紙に書いてほしいと言うと何も書かないのに、直接聞くと意見や思いが次々と出てきます。そのため、ニーズ調査の方法について、紙を渡して書かれた意見だけを汲み取って終わりではなく、大変かもしれませんが、窓口で対応するなどできるだけ本当の思いを聞き取っていただくような形の調査をしてもらえるとうれしいです。

また、資料1の4ページ33番の屈折検査機器による3歳児眼科健診について、子どもの健康は目で見えるところだけではなく、医療的に調べないとわからない部分があり、ご家族は言葉の発達も同じですが見えないところで不安を抱えています。検査を検診として実施することで必要なことがわかることがあると思いますし、今回は目ですが、他の部分でもあるのではないかと思います。

子育て支援課長 資料2の19番について、小中学校の児童・生徒への調査については、小学校5年生と中学校2年生全員を対象としてホームルームなどの時間などに実施していただきます。今回からタブレットを用いた回答方法とし、100%の回収率を目指して実施します。妊婦への調査については、10月1日現在の妊娠者全員を対象としますし、現役の子育て世帯については、幼稚園の保護者、小学生の保護者、中高生の保護者という枠で抽出した方に調査を依頼します。直接対応してご意見を伺うことは重要であると考えていますし、国においても子どもの意見を聴取する機会の確保の重要性を言われていますので、そういった機会も捉えて作りたいと思いますし、今回は5年に1回の調査ですが、それにとらわれずに定期的な機会を設けて施策に反映していきたいと思います。

市民保健部長 言葉の発達に対しては、言語聴覚士に来ていただきアドバイスをいただく言葉の相談会を開催しています。こういった相談会の開催については2歳児相談の際など機会をとらえて伝えてはいますが、応募いただくためのより良い手段や、心配されている方に伝わるような工夫を今後も考えていきたいと思います。

市長 他にもご意見を伺いたいのですが、時間の関係上次の議題に移らせていただきます。

それでは次の議題2「こどもまんなか社会の実現に向けて ～国の動向等と高山市における検討課題～」について、事務局から説明をお願いします。

福祉部長 (資料3を説明)

市長 ただいまの内容について、質問等がありましたらお願いします。

桑谷委員 ワンストップで処理できる窓口を作るということは、ワンストップとするための緩衝材を置いた上で実務を行うところに分けていくと思いますが、ワンストップが市民や子育て中の方に広く認知されることが重要であるため、ワンストップの最初の入口でのさばき方など、スムーズに進むことができる体制をしっかりと整えてもらいたいと思っています。

福祉部長 子どもに関する施策を行う部署については集約していくことを考えています。

市長 他にご意見等ございますでしょうか。それでは次の議題に移らせていただきます。  
それでは次の議題3「公園における大型遊具等の整備について」、事務局から説明をお願いします。

都市計画課長 (資料4を説明)

市長 今回の整備にあたっては、子どもと保護者の方に意見を伺い、いただいた意見をプロポーザルの参加事業者に伝え、それらを基に提案していただくこととなっています。  
ただいまの内容について、質問等がありましたらお願いします。

桑谷委員 遊具に関しては他の市町村と比べて高山市は弱いということを聞いていますので、今回のこの取組みは良いと思います。集まった意見を反映したしっかりしたものを作ってほしいと思います。市民の方は、飛騨市の杉崎公園に遊びに行っているという話も聞こえてきますし、富山の公園が良いという話も聞きます。岐阜は割と滑り台などの遊具が中心ですが、富山には岐阜には無い「ふわふわドーム」という飛び跳ねて遊ぶものがあり、非常に良いという話も聞きますので、岐阜のスタンダードだけではなくて、他県のスタンダードも取り入れると良いと思います。

長瀬委員 利用しやすい公園となるように、公共交通機関についても時間をかけて検討してほしいと思います。せっかく大きな予算を使って整備しますし、利用者も増えていくと思いますので、検討をお願いします。

都市計画課長 公園の付近にはのらマイカーや幹線バスの停留所がありますが、利用がしやすい状況にあるかという点今の状況では難しい部分もあります。周知も含め、様々な方に利用いただけるような検討を今後も引き続き考えていきたいと思っています。

丸山委員 資料ではカラフルな遊具が整備されるというイメージをしてしまいますが、原山なので、景観にも配慮されたものを作ってほしいと思います。自然の山をバックにした場所のため、子どもの目を引くかもしれませんがあまりにも人工的なものではない方がよいと思います。プラスチックや金属の滑り台は夏場は使えないし、雪も降る地域のため、様々なことを考えなければならないと思いますが、利用が減ってしまう遊具の導入はもってのほかだと思うので、見た目ではなく実用を求めたものを作ってほしいと思います。

市長 他にご意見等ございますでしょうか。それでは次の議題に移らせていただきます。それでは次の議題4「行内体制を整備し、特別支援教育の充実を図る学校経営」、東小学校、佐藤校長先生からお話しいただきたいと思います。佐藤校長先生よろしく申し上げます。

佐藤校長 (資料5を説明)

市長 佐藤校長先生ありがとうございました。ただいまの内容について、質問等がありましたらお願いします。

市長 1点教えてください。7ページの通級指導を受ける人数の推移について、中学生も小学生もここ数年でかなり増えていますが、どのような要因で増えているのでしょうか。潜在していた方が様々なケアによって改めて通級指導を受けることがわかったということなのでしょうか。

佐藤校長 各学校において特別支援教育についての丁寧な説明が行われるとともに、幼稚園、保育園、小学校の連携がうまくいき、保育園においては通級指導教室の良いところをアピールし、また成果も上がっているため、それらは希望者が増えている一つの要因と考えられます。

長瀬委員 取組みの内容が各学校に広がっているところがありがたいと思いました。その上で、教育委員会に対して何か要望があればこの機会に話してください。

佐藤校長 東小学校の場合は、特別支援員と保健相談員を多く配置いただきその方々の力はとても大きいです。人的な保証はどの学校からも求められているところだと思っています。

教育長 通級指導の増加については、県はある程度通級を増やしていこうという考えがあり、教室数は増えましたしニーズも増えています。保育園では個別支援が充実しているため小学校でも継続することを希望される方がみえますし、特別支援学級に対するハードルも下がってきました。それ以上に通級に対するハードルは下がりニーズは上がってきています。県はこれ以上通級を増やすことが財政上難しいと言っていますが、教育委員会からは増やしてほしいと要望しています。

私から一つ伺いたいのですが、子ども発達支援センターの役割は非常に大きいものと思

ってしまして、センターの果たしている役割や最近の活動等について話してもらえますか。

子ども発達支援センター長 先ほど、学校の先生方が様々な講師を招きスキルアップのための学習をされているとありましたが、子ども発達支援センターの専門員と体の使い方や言葉を伸ばすプロの療法士に学校に行っていただき個別に支援のアドバイスをいただく事業をセンターで行っています。療法士や心理士の人数は不足していますが、限られた中で各学校に1回ずつ行かせてもらいたいと現在活動しているところです。センターが平成29年に開設してしばらく経ちましたが、学校との距離が年々縮まっていると感じています。センターに教員のOBがいることで教育委員会や現場の先生方と繋がりやすくなり、学校での困りを市が把握することができるようになりました。また保育園、幼稚園の子どもたちが学校に就学する際に切れ間のない支援を意識しており、園での支援を学校に繋げることができるようになったことも評価できる点だと思います。通級指導教室の希望者が増えているという話がありましたが、保育園、幼稚園でのきめ細かな観察と支援により、学校での必要な支援等をおすすめできるようになった点も強化できたところだと感じています。

桑谷委員 通級に通っている子どもが増えてきた理由として、周りの環境が変わってきたというところが一番大きいと思います。保護者が受け入れるようになったということもあると思いますし、親世代の祖父母との認識の違いもあると思います。昔は通級に通うことに対して拒否感を示す世代があったと思いますが、徐々に多様性が受け入れられるようになってきたり、芸能人が幼い頃にそうだったけれどもそれも一つの才能であると受け入れられるなど、通級に通うことは恥ずかしいことではないということが世間一般になってきたのではないかと思います。こういう環境の中で、学校でも様々な小さなことを取り上げることがあったと思いますので、それは良いことだったと思います。早く対応することによって訓練次第で環境に対応できるようになりますので、やはり早いうちに整えた方がより一層児童生徒のためになると認識しています。

白田委員 最後の成果と課題にもありますが、進めていく上で保護者の理解を得ることが一番近道だと思います。大事に進めていくことで子どもが早く医療機関にかかることができるといったことにも繋がっていくので、今までどおり引き続き大事に進めていってほしいと思います。

市長 多様性が重視される社会になっていくことは当たり前のことだと思いますし、多様性の中で生きていくために子どもや大人から様々な声が出されると思います。それらの声に対応しようと思うとお金もかかるし人も必要になります。教育分野だけではなく各分野でクローズアップされていく中で、多様性を尊重するような市政運営をしたいと思う反面、課題もあり悩んでいるところです。どのように対応すると良いか答えは簡単に出てこないと思いますが、これからも様々なご意見をお伺いしたいと思います。

丸山委員 乳幼児教室でお母さんから「子どもが小学校に上がるが、支援級に行くか迷っている」と

いう内容の相談を受けました。とても悩んだ結果普通学級に行かれましたが、その後の状況を聞くについていけない部分があるなど感じることもありましたが、適切なフォローや途中で変更ができるようなきめ細かな対応を市や学校で行っていただいているが、迷って悩んで普通級を選択したとしても、途中で点検をするなど、その子の発達の具合等を細かに見てあげることも必要ではないかと思いました。困って相談に来たお母さんと学校の様子を見聞きして話す子どもの状況から推察をしたので、今後も引き続き丁寧な説明と状況の把握をしていただけたら子どもも幸せだと思います。

市長 現場で対応いただく中で、教育委員会や市長部局で対応できるようなことがあればまた教えていただきたいと思います。

次に、議題5に移らせていただきます。個人情報を含む内容ですので、「地方教育行政の組織および運営に関する法律」第1条の4第6項ただし書きの規定に基づき、これより会議を非公開としたいと思いますが、これに異議ありませんか。

各委員 (意義なし)

市長 異議なしと認め、そのようにさせていただきます。

\*\*\*\*\*

(個人情報保護のための非公開部分)

\*\*\*\*\*

市長 ただいまより、公開に切り替えさせていただきます。

以上で、本日の議題は全て終了しました。その他に皆さまより、何かありましたら承りますが、よろしいでしょうか。

各委員 (なし)

市長 それでは、進行を事務局に戻します。

総合政策部長 以上をもちまして、令和5年度第1回高山市総合教育会議を終了します。